

11 大会組織委員会にて従事した職員を紹介します

東京2020大会を成功に導くため、町田市職員から6名の職員を東京2020大会組織委員会に派遣しました。市役所業務ではなかなか経験できないことを体験してきた職員の業務内容やエピソードを紹介します。

竹村 真宜

■組織委員会の所属部署名

大会準備運営局大会計画部運営準備課観客の経験チーム

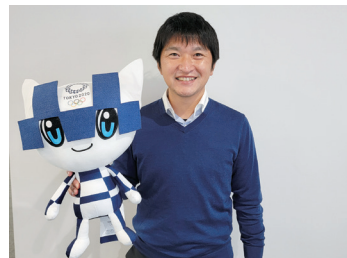
■派遣期間

2014年4月～2016年3月

■従事内容

私が所属した2年間は組織がどんどん大きくなっている時期で、職員の増加に伴い、東京都庁から新宿住友ビルに移り、2015年からは虎ノ門ヒルズで仕事をすることができました。

2年間で受け持った業務は「セレモニー」「聖火リレー」「文化」「教育」「観客の経験」の5つで、セレモニーチームとして新国立競技場の聖火台の位置の決め方やリオデジャネイロ五輪のフラッグハンドオーバー（旗引き継ぎ式）のイベント内容を電通やイベンターの方々と決める作業をさせていただきました。志半ばで町田市に戻ることで、テレビの前で「安部マリオ」を見たことは悔しかった半面、自分しか知らない情報だったと誇らしくも思いました。一歩間違えるとニュースを賑わせる大きな仕事をしていたという意味で、とても貴重な経験をさせてもらい、現在の職員生活にも活かされていることが多いと思っています。



木村 千絵子

■組織委員会の所属部署名

広報局事業部観客の経験課 兼 広報部戦略広報課

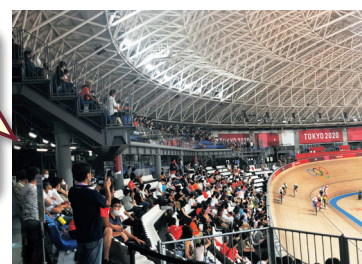
■派遣期間

2016年4月～2021年9月

■従事内容

「観客の経験課」という変わった名前の部署で、観客にとってより良い大会になるように企画調整を行っていました。結果的にはほぼ無観客となってしまいましたが、観客のジャーニー（旅）が最高の経験となるよう取り組んだ五年半は、かけがえのない時間でした。また最後の一年間はメディア対応の広報も兼務し、常にスピード感を求められる環境で鍛えられました。今回の派遣を通して、一つの目標に向かって多様なメンバーと協働しながら自分にできることをやり切る、という大変贅沢な経験をさせていただきました。

数少ない有観客会場となった伊豆ベロドローム。力強い拍手を送る観客の姿に感動しました。



友井 恵子

■組織委員会の所属部署名

企画財務局アクション&レガシー部アクション&レガシー課

■派遣期間

2017年4月～2019年3月

■従事内容

東京2020大会を日本や世界全体に対し、スポーツ以外にも含めた様々な分野でポジティブなレガシーを残す大会として成功させるため、官公庁、競技団体、パートナー企業等の多様なステークホルダーと連携し、様々な取り組みを行いました。使用済みの携帯電話等を回収し、メダルの材料とする「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」では、全国の小学校で出張授業を行い、プロジェクトをPRしました。また、平昌パラリンピック開催時には10日間韓国に滞在し、大会関連施設や文化プログラムの視察を行う等、貴重な経験を多数することができました。

メダルプロジェクト出張授業in福岡県大牟田市立天領小学校
写真中央はゲストのアトランタパラリンピック水泳金メダリスト（平泳ぎ）梶原紀子さんです。
（2018年12月3日撮影）



荒木 涼太

■組織委員会の所属部署名

ゲームズ・デリバリー室 MOC企画部 大会開催計画課

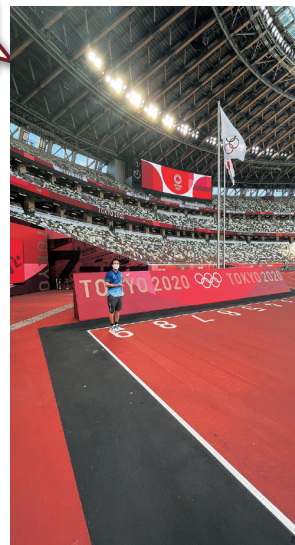
■派遣期間

2018年4月～2021年9月

■従事内容

主にIOC/IPC/国/都との幹部会議の事前調整・当日運営や、組織委員会内の各計画の進捗管理等を行っていました。大会中はメインオペレーションセンター（MOC.大型モニターが多く設置された運営本部的な場所）で、大会中に発生する課題の対応のためIOC/IPCと常に連絡を取っていました。毎日予期せぬことが発生するため、チーム内での議論、上長やIOC/IPCへの報告・相談のタイミング検討等、常に柔軟に行動することが求められました。印象に残っているのは、大会期間中に世界の航空会社から「東京行の大会関係者が持つ陰性証明書の検査方法の記載に不備があるが搭乗させてよいのか」等の国際電話での問い合わせにうまく答えることができず、想定問答を英語で必死に作成したことです。

新国立競技場にて



鈴木 江里菜

■組織委員会の所属部署名

大会運営局会場マネジメント部会場運営第一課会場マネジメント第一チーム

■派遣期間

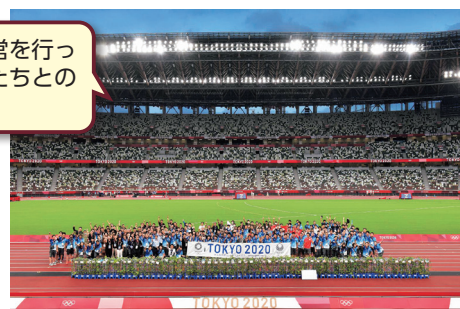
2019年4月～2021年9月

■従事内容

組織委員会では、マラソン競技運営を担当しました。会場がある競技とは異なり、路上競技であるマラソンは42.195kmコース全体が競技エリアとなるため、競技を安全に実施できるよう、内部調整はもちろん、コース沿道事業者への説明や沿道で活動するスタッフ控室・競技用資機材置場の手配等、多岐にわたる調整業務を行いました。

2年半の業務を通し、たくさんの方との出会いがありました。所属元の異なる多種多様な職種の同僚を持ち、交渉事の多い業務の中で説明の仕方一つとってみても、手法が異なり、学ぶことばかりでした。この経験や出会いは、人生でかけがえのない宝です。

競技会場運営を行ったスタッフたちとの集合写真



武藤 玲美

■組織委員会の所属部署名

スポーツ局競技計画部練習会場計画課

■派遣期間

2019年4月～2021年9月

■従事内容

組織委員会では選手の練習環境を整えるために、施設の確保・契約や運営計画の策定をし、大会時には実際に練習会場の運営を行いました。選手の安全確保はもちろんですが、借用している施設の方との動線分けなども検討し、コロナ対策を行ったうえで、選手の練習環境をより良いものにすべく、ボランティアの方と協力して運営にあたりました。

特に印象に残っているのは、パラリンピックの選手がとても明るく前向きに競技をしている姿です。試合で結果を残したいという気持ちは強く感じましたが、それ以上に、練習や試合をととても楽しんでいる様子から、常に前を向いて挑戦し続けるアスリートの力強さを肌で感じることができました。

車いすラグビー練習風景

